

なんたん

No. **23**

農業委員会だより

平成26年 2月号



水仙を植えました!

農業委員会のうごき	2~3
地域農業を支える	4~5
食と農業 その12	6
まちかど通信	7
なんたんあっちこっち	8
委員ぶらり旅	8
編集後記	8



(吉富小学校1年生の皆さん)

発行 南丹市農業委員会

編集 南丹市農業委員会広報委員会

TEL.0771-68-0067 FAX.0771-63-0654

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

E-mail: co-nougyo@city.nantan.kyoto.jp

URL = <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou.html>

農業委員会のうごき

管外視察研修を実施



▲大台町役場で説明を聞く

平成25年11月28日に奈良県山添村役場で「人・農地プラン」について、三重県大台町役場で「鳥獣害対策」について、翌29日に三重県いなべ市役所で「人・農地プラン」の取り組みについて研修しました。

奈良県山添村は、人口4,100人、戸数1,300戸、65歳以上の比率が40%の高齢の村。30集落のうち11集落で人・農地プランの作成が完了しています。

農業委員と農家組合長が集落の中心となり、プランの作成に携わる人選を行い、2回程度の会合で大方のプランを作っていく、4回程度で作成が完了されています。山添村岩屋地区では、中心経営体の決定と農地の現況図を基に地域に合ったプラン作成を目指し、管理しやすい農地を守るプランにしようと決めて作成されました。

三重県大台町役場では、林道の衰退による山の管理不十分により獣害が増加してきたことから、遠隔監視システムの構築をされていました。

誘導囲いわなの上部に監視カメラを設置し、センサーが反応すれば携帯メールに情報が入り、遠隔操作で捕獲ができるシステムの説明を受け、その後町役場付近（民家至近）の誘導囲いわなの現場の視察や、意見交換を行いました。

大台町の担当者は、カメラによる常時監視と録画が可能となったことで、狙った個体や複数頭の捕獲が可能になったと語っておられました。



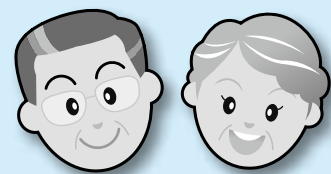
▲大台町役場付近の誘導囲いわなの現場で説明を受けました

★農業者年金に加入しましょう!★

農業者年金は、農業者だけが加入でき、保険料の手厚い国庫助成があるなどメリットの大きい年金制度です。国民年金の第1号被保険者で、年間60日以上農業に従事する60歳未満の方ならどなたでも加入できます。

★年金のメリット★

- ①80歳までの保証が付いた終身年金です。
- ②納付した保険料は、全額、所得税の社会保険料控除の対象となります。
- ③認定農業者などを対象に保険料の国庫補助があります。



■農業者年金に関するお問い合わせは、農業委員会事務局または JA 京都各支店まで

農業施策に関する建議書提出

平成 25 年 11 月 25 日（月）に南丹市長に対して建議書の提出を行いました。農政部会で審議を重ね、5 つの項目に絞った内容となっています。以下に掲載します。



▲佐々木南丹市長に建議書を手渡す野中会長と大沢職務代理と上田農政部会長

1. 災害時における支援策について

先の台風 18 号による農業基盤への甚大な被害は今なお爪痕が残り、今後の営農活動に多大な影響を与えることとなっている。

高齢化や零細農家が多くを占める本市の農業者にとって、営農意欲の減退を招いているところである。農業基盤の復旧が滞ることにより、耕作放棄地の増加につながる恐れが容易に推測される状況を鑑み、各種災害復旧に係る補助制度の対象とならない事案についても、きめ細かな対応ができる支援施策の創設を図りたい。

加えて、平成 25 年 10 月 7 日付、台風 18 号に伴う農業被害に関する緊急要望についても十分な対策を講じられたい。

2. 有害鳥獣対策について

有害鳥獣による農作物への被害に対して、捕獲と防除の両面からの対策を講じられてはいるものの、今もって被害は甚大で、農業者の営農意欲の減退を招いている。

そもそも獣の棲み家である山に餌がない状況が、今日の有害鳥獣における被害拡大の一因であることから、平成 23 年 5 月に策定された「南丹市環境基本計画」における重点プロジェクトの中の「豊かな森再生プロジェクト」の初期段階で取り組むべき「広葉樹の森づくりの推進」について着実な実行をされたい。

また、平成 17 年度から美山町内で取り組まれた被害対策に有効とされる、里山整備によるハフファゾーン（暖衝地帯）の整備について効果を検証し、地域で積極的に整備できる環境づくりに努められたい。

3. 食育・地産地消の推進について

昨年度策定された「南丹市健康推進・食育推進計画」により様々な施策の推進が図られているところではありますが、とりわけ食育・食農教育を推進するため、次代を担う子どもたちの農業体験学習を通じ、農業への理解促進に寄与する学校教育事業について更なる積極的な支援を行われたい。

また、次年度の園部中学校をもって中学校給食も市内全てで開始されることにより、食材需要も増加することとなる。

可能な限り地元産食材の年間需要量の把握に努め、年間を通じた地元生産者による供給を確保できる方を構築し、安心安全な地場農産物の積極的な活用が行われるとともに、公平公正な納入体制を整備されたい。

4. TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への対応について

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）交渉への対応については、必要な情報を正確かつ速やかに提供するとともに、農産物における重要 5 項目の聖域化が確保できないと判断した場合には、即時、交渉から離脱するよう国・府に要望されたい。

5. 土砂災害特別警戒区域指定への対応について

山間部では、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」により、「土砂災害特別警戒区域」に指定され、開発行為や建築物の構造規則といった所有者側の政権がある区域が数多く存在する。

地域の農地を守る担い手農家の居住地確保のみならず、集落存続の観点からも、移転に際しての支援措置はあるものの、様々な事由により移転も出来ない居住者に対する既存建築物の保護に関する支援策の創設を国・府に要望されたい。

地域農業を支える

あの人この団体!

地域農業の再生を目指して、人と農地をテーマに、個人やグループで力強く農業を営む農業者シリーズを掲載します。今回は、八木町内の個人や地域で生産活動されている方々を紹介します。
(取材：小川幸雄委員)

担い手養成実践農場の
研修修了を終えて
地域農業を支える
新規就農の農家を訪ねて

八木町神吉

中辻文隆さん

中辻文隆さんは、平成23年8月から25年7月まで、担い手養成の実践農場研修を、担い手づくり後見人の綿井幸二さんと技術指導員の松崎忠嗣さんの支援のもとでされ、平成25年12月11日に実践農場修了書の交付を受けられました。



▲綿井さん 中辻さん 松崎さん

これからは、生まれ育った神吉の地で更に規模拡大し、雇用の拡大で地域を盛り上げていきたいと大きな夢を持ち活躍されています。

の活動に励んで頂くことに期待をしています。現在は、30アールの農地に6棟のビニールハウスで京野菜の九条ねぎと水菜の栽培をされています。

地域の活性化に向けた活動取組

八木町室橋

4年前から地域のふれあいの場としてのサークル(親睦を目的)を立ち上げ、地域の活性化を目指した大きなしめ縄づくりと、とんどやぐら作りが行われています。

夏に稲の青田刈を行い、12月に、地域全体でしめ縄づくりに取り組み、玄関に大きなしめ縄の飾り付けを行います。毎年、1月13日の朝8時に地域の広場にしめ縄を持ち寄り、2m四方の大きな「とんどやぐら」を作り、みんながつくりあげたしめ縄を持ち込み、火を入れて五穀豊作と無病息災を願う地域の活性化のための活動が開催されています。



▲とんどやぐらに火を入れる様子

氷室の郷公園

「やぎ」の朝採り市の初市

毎週土曜日の朝(午前10時から11時30分)「氷室の郷」朝採り市では、地元産の新鮮で安心・安全な野菜や焼き立てパン・ピザ・よもぎもちなどを地域の農家14戸が、それぞれの品を持ち寄り、旬の地元産の新鮮な商品を提供されています。



毎回、多くの方が魅力的な野菜を求めて集まり、にぎわっています。

1月11日の初市には特典の「ぜんざい」がふるまわれ盛況でした。



▲朝採り市の様子

農業を引き継ぐ

八木町鳥羽 山口正治さん
八木町室河原 明知 隆さん

八木町鳥羽の約25アールの農地に、45mのビニールハウスが5棟並んでいます。

このビニールハウスは、平成5年から山口正治さん（75歳）が順次整備され、水菜と九条ねぎを栽培してこられたものです。山口さんが、このようなハウスを建て、農業に本格的に取り組むこととなったきっかけなどを伺いました。

「それまで勤務していた交通関係の会社の早期退職制度で、



▲水菜と九条ねぎを栽培している山口さん

退職して農業を始めても10年間は一定割合の手当てが支給されるといいう、現在では考えられないような優遇措置があったから始めることができました。それ以来、近くの肥料店などから助言を受けながら、農地の整備を行い、ハウスの組み立て、さらに、地下水のくみあげ施設、散水施設、堆肥置場などを順次整備して、野菜を育て出荷してきました。」

「また、ハウスの上に登る方法、ビニールの補修方法や巻取り方法などで独自の方法を考案し、これらは雑誌「現代農業」に合計4回掲載されました。」

このような山口さんの京野菜の生産振興に対して、平成17年妻貞江さんとともに知事表彰が贈られ、また、平成25年には、改良された技術が農山漁村伝承技能に登録されました。

「こうした努力が21年間続けてこられたのは、地場産業を育てなければという思いと、会社で経験したQC運動が役に立った。」と述べられています。しかし、年齢を重ねるに従い、数年前から「適当な後継者がいれば引き継ぎたい」と考えるようになったそうです。

幸運にも新規就農研修中の明知隆（30歳）さんに巡り合い、

（注）QC運動…企業などにおける品質管理のための運動



▲水菜を栽培する明知さん

しばらく一緒に仕事をした結果、「整備したハウスなどの施設に対して一定の負担をして頂くことを前提に、明知さんに引継ぐことに決めた」そうです。

明知さんは、飲食関係の仕事を辞め、平成23年から新規就農研修を受けられた、まさに新規就農者です。

平成25年11月から本格的に鳥羽のハウスで水菜を栽培されていますが、「新たにそろえるものが多く、今は経営的にはまったく成り立っていない」「今はこの規模で精一杯」といわれています。

その一方で、「出荷した野菜が高く売れたときが一番うれしい」と素晴らしい笑顔でした。山口さんは、「これからは自

家消費程度に規模を縮小して、2週間程度の若苗での米作りに挑戦したい」と意欲は衰えない様子でした。両人に勇気をいただき、今後の活躍を祈る取材でした。



▲ビニールハウス内での作業の様子

（取材 市原松司委員）



女性委員の活動報告

平成25年度、食育をテーマに農業体験に取り組みました。日吉町の大向営農組合の圃場を借りて、殿田小学校5年生の皆さんと泥んこになりながら田植えをし、秋にはたわわに実った稲を汗をかきながら刈り取りました。

後日、お礼にと、お米を使った料理をごちそうになり、「楽しかったよ」と児童の寄せ書きまで頂いて、大変感激しました。最後の学習発表会でも、お米

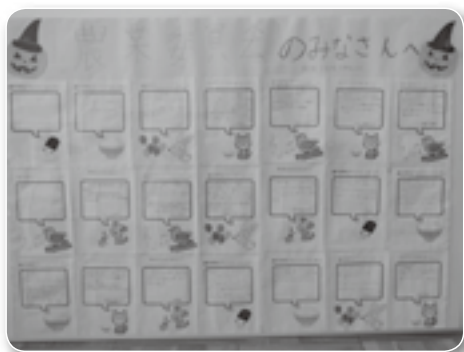
食を支える
あの人この団体!

南丹市農業委員会は、農業の果たす役割と、食の大切さを多くの市民の方に知っていただくために、食と農業に係わる人や団体のシリーズを掲載しています。



▲お米を使った料理

のことを、いろいろと発表してもらい、私達も頑張らなくてはと思い新たにしました。平行して、たくさんの方々と交流をするため、さつまいも



▲5年生の皆さんから頂いた寄せ書き

の苗を300本定植しました。おかげさまで多くの皆さんから、いもほりをしたいと申し込みを頂きました。

地元の子供会、小学生の皆さん、グループの方々、それに外国の方達にも来てもらい、おいもが顔を出すたびに上がる歓声に、私達の顔もゆるんで来ました。

忙しい中ではありましたが、皆さんに喜んで頂く事ができ、これ以上嬉しいことはありません。お世話になった皆さん、本当にありがとうございました。

(下間久子委員)

普段は何気なく食べているお米(ごはん)でしたが、自分で苗を植え、稲を刈り取り、

お米を炊いてみて、あらためて食べることに興味を持ち、さらに、興味を持って食べてくれて、12月7日の学習発表会を見学させてもらいました。

お米には10個の栄養があること、たんぱく質、炭水化物、ビタミンB1が身体の調子を整え、その他は力の源になること。

白いごはん、おにぎり、チャーハン、オムライス、カレーライス、天丼、親子丼に変身する。

から揚げ、ハンバーグ、みそ汁も白いごはんと一緒に食べるとおいしいよと。いろんなことに気づいてくれました。

これで、食事の時間が一段とおいしく感じられるようになったらいいなと思いつつ帰ってきました。

(谷本みどり委員)



▲お米の発表をする5年生の皆さん

まちかど通信

私と農業の思いで 「きょうと食いく先生」

5年ほど前から、小学校からの依頼で食育指導を行ってきました。

平成25年度は、殿田小学校の5年生に田植えから稲刈りまでの指導をしました。

秋には収穫祭として、米料理で「おはぎグループ」等の試食もさせてもらいました。

このような活動を行っていた

ことで、私は平成25年11月6日に、京都府知事より「きょうと食いく先生」の認定を受けました。

南丹広域振興局管内では、農家や主婦から7名を認定（京都府内では80名）、私には大変重荷です。

子ども達が安全で、安心して口にすることができる農産物作り、また、地元野菜を使って、なつかしい味、調理等で出来る範囲内で活動していきたいと思っています。

食いく先生は、小中学校からの依頼に応じて派遣されますので、申し込み等は京都府農林水産部食の安心・安全推進課まで、また、技能名「納豆もちの加工」で、平成25年11月15日に農山漁村伝承技能として登録証を京都府知事より頂きました。

日吉町では、正月等に納豆をもちで包んだり、挟んだりして食べる行事食「納豆もち」があります。昔ながらの加工で懐かしい味です。

納豆嫌いの人にも、もちに挟むと食べられると好評です。

「納豆もち」を広く知って頂き、伝えて行きたいと思います。

（吉田陽子委員）



▲前列右から2人目 吉田委員

なんたん

あっちこっち

とにかく広い南丹市。

南丹市のあちらこちらでは、その地域ならではの面白く、楽しい、また興味深い取り組みがされています。

そんな南丹市の、あっちこっちのできごとを紹介します。



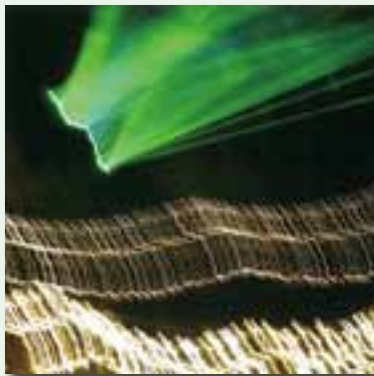
山々の木々が秋色に深く染まる11月中頃、周山街道を北へ向い、途中、美山町鶴ヶ岡の振興会前を左折して約10分、洞地区にお住いの、しめ縄グループの代表、岡本健さんの作業場を訪ねました。

岡本さんは、年々高齢化等により作り手が減少傾向の中、しめ縄教室で講師として、後継者の育成に努力されるかたわら、「ご自身もしめ縄づくりにこの時期大変忙しくされていました。

特に大社本殿の大しめ縄は、20数名の地域の方が誇りを持って長年受け継いで来られました。使用する稲は京の酒米「祝」で、府内の契約農家約140戸で栽培し、20数社の蔵元が酒造りに取り組んでいます。

(取材 梅津義明委員)

伏見稲荷大社に
しめ縄を奉納して20数年



ようこそおとぎの国へ。澄み切った自然の中、オーロラが姿を見せるとき、子どもたちの夢で見たおとぎの国が現れる。誰も観たことのない幻想的な景色、それが「京都イルミエール」。是非あなたも感動の光の世界へ足を踏み入れてみては…(3月初旬まで開催予定)

(取材 藤田委員・澤田委員)



満天の星空が繰り広げる
100万球の光の祭典

委員ぶらり旅

澤田肇委員編



京都の自然20選 元伊勢三社参拝の旅

伊勢神宮が現在の場所に定まる前に何力所が鎮座した場所があるとされ、その一つが福知山市大江にある元伊勢神社です。大江の市街地から2kmほど北にある外宮(豊受大神社)が、長い石段を上がった所があり、周囲は巨木が生い繁りなんともいえない風格があふれています。さらに、3kmほど北に行くと、内宮(皇大神社)があり、創建は崇神天皇39年(紀元前59年)とされ、ちなみに伊勢神宮

はこの54年後に建立されました。

内宮からほど近く宮川の谷に、天岩戸神社があり、正式には天岩戸大神社と呼び、内宮・外宮と併せ元伊勢三社と呼んでいます。巨石の上に社殿があり鎖を使わないと登ることができません。

静寂に包まれ、一人古代へタイムスリップしたような、何とも不思議な心洗われるような気分になりました。

編集後記

美山町の学校給食で一番の人気メニューは、白いアツアツのわかめ御飯と聞いています。

各御家庭で毎朝アツアツの白いご飯と好きなふりかけと、味噌汁というシンプルでも愛情のこもった朝食で子ども達を学校に送り出す、日本の朝の風景を取りもどしたいものです。

(梅津義明委員)